

価値創造の軌跡

OKIは創業から140年以上にわたり、「進取の精神」をもって、社会のニーズに応える先進的な商品・サービスを数多く送り出してきました。そしてこの先も、社会課題の解決に寄与する価値創造を通じて、人々の快適で豊かな明日を実現していきます。

社会の大丈夫をつくっていく。

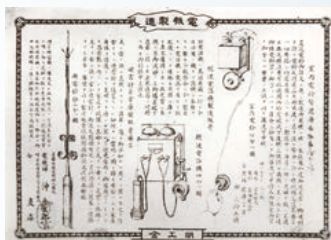
1881年(明治14年)
沖牙太郎が明工舎を創業



沖牙太郎が明工舎を創業した明治初期、日本では郵便、電信、電話と、現代につながる情報通信の仕組みが次々に実用化されていきました。この通信の黎明期に、牙太郎は電信・電話の将来性を認識し、その発展に尽力。電話がアメリカから持ち込まれた4年後には、日本初の国産電話機の開発に成功します。

自らの技術と発想力で道を切り拓いた、この牙太郎の「進取の精神」は脈々と受け継がれ、今日のOKIがあります。

- 1881** 沖牙太郎が明工舎を創業。国産初の電話機を開発し、内国勸業博覧会に出展
- 1896** 国産初の直列複式交換機を東京浪花町分局に納入、稼働開始
- 1902** 国産初の磁石式並列複式交換機を長崎局に納入
- 1918** 純国産の共電式交換機を高輪局に納入
- 1930** 自動交換機の第一号機を中野局に納入



明工舎の宣伝用ポスター



磁石式並列複式交換機

1881~

- 1950** 「復興のシンボル」ともいわれた4号形電話機の量産を開始
- 1953** ページ式印刷電信機「テレタイプライター」を発売
- 1961** 国産初のコアメモリを使用したコンピューターを発売
- 1962** ホンジュラスより通信網工事を受注
- 1963** 600形電話機の量産を開始。1971年までに累計390万台を出荷
- 1969** ミニコンピューター「OKITAC®-4300」を発売
- 1971** D10形電子交換機を電電公社に納入
- 1975** アメリカベル研究所とセルラー自動車電話の共同開発契約締結
- 1976** デジタル式感熱ファクシミリ「OKIFAX7100」を発売



テレタイプライター



600形電話機

OKITAC-4300

1950~

- 1980** パーソナルコンピューター「if800シリーズ」を発売
- 1981** 世界初のLEDプリンターを開発
- 1982** 世界初の紙幣選流機能付きATM「AT-100シリーズ」を発売
- 1985** オキ アメリカ社オキ テレコムグループで自動車・携帯電話の一貫生産を開始
- 1986** 日英自動翻訳システム「PENSEE」を発売
- 1996** コンピューター・テレフォニー統合システム「CTstage®」を発売。国内初のVoIPシステムを発売
- 1998** OKIの主要生産拠点でISO14001を取得



LEDプリンター

VoIPシステム

紙幣選流型ATM

1980~

- 2000** 世界初、ITS路車間通信システム用ミリ波帯光ファイバー無線伝送システムの開発に成功
- 2002** EMS事業を開始
- 2003** 次世代航空通信ネットワークルーターをアメリカ連邦航空局へ納入
- 2005** リアルタイム地震防災システムを開発
- 2006** 世界初の、異種材料間の薄膜接合技術「エピフィルムボンディング」を実用レベルで量産化に成功
- 2008** 業界初5年間無償保証のプリンター「COREFIDO」シリーズを発売
- 2009** 複数国紙幣の取り扱い可能な全世界市場向け紙幣選流型ATM「ATM-Recycler G7」を開発



COREFIDO

ATM-Recycler G7



初期のEMS工場

2000~

- 2010** 国連グローバル・コンパクトに参加
- 2014** 920MHz帯マルチホップ無線ネットワークを利用した「河川監視システム」を開発
- 2019** TCFDへの賛同を表明。AIエッジコンピューター「AE2100」を発売。人手不足の解消を実現するサービスロボット「AIエッジロボット」を開発
- 2020** 非接触での画面操作を可能にする「ハイジニック タッチパネル™」を開発
- 2021** 2030年までの「イノベーション戦略」を発表
- 2022** 大規模生産施設として国内初の「ZEB」認定工場「本庄工場H1棟」竣工。DX新戦略を発表



AIエッジコンピューター AE2100

AIエッジロボット



ハイジニック タッチパネル

2010~

OKIが提供した価値

時代の先駆者として国内通信網の整備に貢献

戦後の通信網復興に尽力。官民をあげた国産コンピューター開発プロジェクトに参画し、総合通信メーカーとして時代をリード

創業100周年を迎え、高度情報化社会に必要なシステム・商品をグローバルに提供

独自技術をもとにニーズに応える商品・サービスを開発、広義の社会インフラを支える

防災や減災、非接触・非対面などの新たな社会要請に応える商品を創出

時代背景・社会課題

産業近代化の幕開け
関東大震災からの復興

戦後の復興
高度経済成長期

グローバル化の進展
インターネットの普及と高度情報化

変化する社会秩序、多様化する価値観とニーズ
環境・人権などへの意識の高まり

相次ぐ自然災害、顕在化するさまざまな社会課題
MDGs*からSDGsへ

*MDGs (Millennium Development Goals) : 開発途上国における貧困問題などの解決に向け、2015年をターゲットに策定された開発目標。